

V-High 帯域における実証実験について

以下のフォーマットにより、実証実験結果をまとめていただくよう実証実験実施者に依頼予定。

実証実験等の結果※

※枠は必要に応じて広げていただいて構いません。
なお、本資料は原則公開資料とします。構成員限りの取り扱いを希望する場合は該当箇所にその旨を明記してください。

1. システムの概要

- ・システムの概要を記載してください。また、送信機、受信機を含むシステム全体の構成図をできるだけ詳しく記載してください。

[システム名]

- ・システム名を記載してください。

[システム概要]

- ・文章でシステムの概要を説明してください。

[送信機、受信機を含むシステム全体の構成図]

- ・システム全体の構成が分かるように具体的に記載してください。その際、送信機、ネットワーク装置、受信機などの構成要素の機能について可能な限り具体的に記載してください。また、送信機や受信機に接続される機器があればそれらを結ぶネットワークの媒体（光ケーブル、WiFi等）も記載してください。

※送・受信形態について、該当する□にチェック✓を入れてください。

- 1:1
- 1:N
- その他

2. ニーズ※

※利用主体が複数ある場合はそれぞれについて記載してください。

具体的な利用ニーズ(平時の利用ニーズを含む)

サービスが主に災害時に提供されることを想定している場合は、平時についても分けて記載をお願いします。

①システムを利用したいという要望がある利用主体

[利用主体①]利用主体①]

- ・実際にシステムを利用したいという具体的なニーズを持っている利用主体について、業種などの属性だけでなく、具体的な法人や自治体名、その数などを可能な限り具体的に記載してください。
- ・利用主体は、サービスを享受する者とし、サービス提供主体と区別してください。なお、自営システムの場合は利用主体とサービス提供主体が同一になりますが、ここでは利用主体としての観点から記載してください。

[利用主体②]

- ・
- ・
- ・

②想定する利用主体からの具体的な要望等

[利用主体①][利用主体①]

- ・利用主体からの要望や意見について、ヒアリング等で得られた情報を元に、利用主体が抱える課題とこれまでのなども含めて具体的に記載してください。

[要望内容]

[利用主体②]

[利用主体②]

[要望内容]

- ・
- ・
- ・

③代替手段の有無

- ・考えられる代替手段を挙げるとともに、当該手段ではニーズを実現できない理由、システムにより最も有効的かつ効率的に実現できる根拠等について具体的に記載してください。


④システムの用途

[用途]

- ・利用主体がどのような用途・場所でシステムを利用するのかを具体的な利用シーンも含め記載してください。

[利用場所]

[イメージ図]



3. 実現可能性

3.1 サービス提供主体*

*サービス提供主体が複数ある場合はそれぞれについて記載してください。

①想定するサービス提供主体

[サービス提供主体①]

- ・ 想定するサービス提供主体を具体的に記載してください。業種などの属性が分かるように記載してください。

[サービス提供主体②]

- ・
- ・
- ・

②サービスエリア

[サービス提供の想定範囲]

- ・ 例えば、全国、都道府県全域、特定の市町村、構内等、範囲が分かるように記載してください。

[想定サービスエリアの特徴]

- ・ 例えば、都市部、郊外、ルーラルなど、想定しているサービスエリアの特徴を記載してください。地形的特徴（山岳地帯、沿岸地帯など）についても必要に応じて記載してください。

3.2 サービスの継続的提供

[サービスの事業計画]

- ・ サービスを開始し、継続的に提供するための中長期的な道筋を費用（初期投資や運用費等）や利用者数、サービスエリアの展開などを含めた数年単位の事業計画を記載してください。
- ・ サービス提供主体と提案者が異なる場合、サービスの継続的提供の見通しについて記載してください。

3.3 サービスを提供するインフラ構築

①インフラシステムの構築

・特にインフラ設備（サービス提供のために必要な設備）について、3.2の事業計画に基づいて必要十分な規模のインフラをどのように（主体・時期・費用・展開イメージ等）構築することとしているか、具体的に記載してください。

②システムの普及

・システムの普及計画について具体的に記載してください。1:N型のシステムについては端末の普及計画についても具体的に記載してください。

③システムの操作性

・想定される利用主体にとっての使いやすさの観点から、システムの操作性について具体的に記載してください。
・例. 電源を投入するだけで自動でネットワークが構築できる、故障内容がランプで分かりやすく表示される 等

3.4 標準化・規格化の状況

該当する□にチェック✓を入れてください。

●標準化・規格化：済 未

●標準化・規格化が「済」の場合：規格の名称

●標準化・規格化が「済」の場合：

適用可能と想定する技術基準（無線設備規則に規定する技術基準）

（記載例）無線設備規則第●条に規定する規格を適用

●標準化・規格化が「未」の場合：標準化・規格化機関への提案の予定 有 無

●標準化・規格化機関への提案の予定が「無」の場合：標準化・規格化が不要な理由について記載してください。

●標準化・規格化機関への提案の予定が「有」の場合：標準化・規格化機関名

標準化・規格化機関提案時期 20 年頃

標準化・規格化時期 20 年頃

4. 社会的な効果

4.1 社会への貢献

①地域や社会全体(公共福祉、安心・安全)への貢献

・地域や社会全体への貢献について、具体的に記載してください。

②SDGs の達成

[SDGs 該当箇所①]

・当該システムがSDGsのどの項目に該当し、どのような手段でその目標を達成できるのか、具体的に記載してください。

[目標を達成するための手段、貢献方法①]

[SDGs 該当箇所②]

[目標を達成するための手段、貢献方法②]

・
・
・

4.2 サービスの公共性

・国民がサービスの恩恵を幅広く享受できる仕組みになっているか具体的に記載してください。

5. 技術的な要素

[システムブロック図]

- ・当該システム全体のシステムブロック図を記載してください。

5.1 V-High 帯域を利用するメリット

- ・当該システムについて、*V-High* 帯域の電波伝搬特性を踏まえ、*V-High* 帯域が必要である理由を具体的に記載してください。他の周波数帯で実現困難な理由についても併せて記載してください。

5.2 技術的性能の検証

①想定する周波数

※どちらかを選択してください。

占有周波数帯幅 (MHz/kHz)^{*} × 波

②システム全体の必要周波数とその算出根拠

- ・当該システムを日本全国（又は特定の地域）に導入する場合において、必要な周波数幅とその算出根拠を記載してください。

③空中線

種別（指向性の有無を含む）

空中線の絶対利得 dBi

④最大空中線電力

基地局相当 W

端末相当 W

※基地局相当と端末相当で空中線電力が同一の場合は片方だけの記載で構いません。

⑤方式等

単向 単信 複信 同報 その他()

⑥分割多重方式

TDD FDD TDM FDM その他()

⑦変調方式(4FSK、 $\pi/4$ シフト QPSK、16QAM、OFDM 等)

⑧伝送容量及び伝送距離 (複数の組み合わせがある場合は使用可能性の高いものを記載してください。)

空中線電力	変調方式	伝送容量	伝送距離	備考

⑨周波数共用条件

[自システムにおける周波数共用]

・自システム相互間の想定する周波数共用条件 (回線設計等) を記載してください。

[他システムとの周波数共用]

・他システムとの周波数の共用可能性のほか、公共ブロードバンドシステムとの共用条件を踏まえたガードバンド (202.5MHz~207.5MHz) の有効利用方法もあれば記載してください。

5.3 実装上の課題解決

・システム開発やサービスに必要な機能を機器に実装する際に、解決すべき技術的課題を具体的に記載してください。また、その課題を解決するための方策や計画についても記載してください。

6. その他

・上記のほか、システムの特徴を理解するうえで記載すべきことがあれば、こちらに記載してください。